

7 海洋環境を守る取組

藻場

海草や海藻が密になって生えている海の森を藻場と言います。藻場は水中の二酸化炭素を吸収して酸素を供給するとともに、水産生物の産卵場・成育場になっているなど、水産資源の増殖に重要な役割を果たしています。沿岸域の開発や環境変化によって、藻場の面積は減少しましたが、県では「宮城県藻場ビジョン」を策定し、藻場の保全・創造に努めています。

藻場の役割

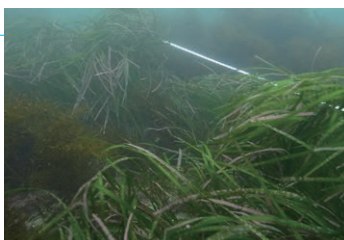


本県で見られる藻場の種類

海域・水深・底質によって異なる様々な種類の藻場があります。

アマモ場

波の静かな内湾沿岸の砂泥底に繁茂するアマモなどから構成される藻場です。アマモは海草の一種で陸上の植物と同様に種子で繁殖します。



ガラモ場

主に岩礁、転石に生育する褐藻類のホンダワラ属から構成される藻場です。大きな群落を形成するため、魚類等の生息場、稚魚の成育場として重要な藻場です。



アラメ場

大型褐藻類の一種であるアラメから構成される藻場です。岩礁に繁茂し、大きな群落をつくるのが特徴で、アワビやウニなどの餌として重要です。



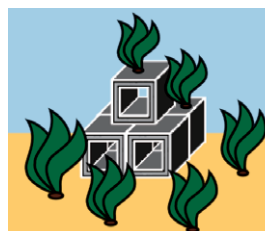
コンブ場

コンブ類等から構成される藻場で、本県では、マコンブやホソメコンブが主な構成種です。アワビやウニなどの餌となります。

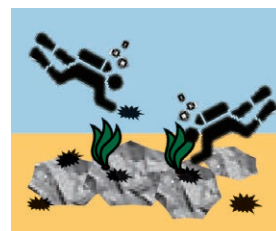


藻場を守る取組

海藻を着生させるための基質を海底に設置するハード対策と、増えすぎたウニが海藻を食べつくさないよう漁場から取り除くソフト対策とが一体となった広域的な取組を実施し、藻場の造成を進めています。



ハード対策 (基質設置) のイメージ



ソフト対策 (ウニ除去) のイメージ

干 潟

干潮時に干上がり、満潮時には海面下に没する潮間帯で砂泥質の浅場が広がる場所を干潟といいます。干潟には河川から栄養塩や有機物が流れ込んでくるため、二枚貝や底生生物の生息地となっています。東日本大震災における津波や地盤沈下などによって、県内の多くの干潟の機能が低下しましたが、県では干潟の復旧整備を行い、完成した干潟の一部ではアサリの漁獲が再開されています。

干潟の役割

大切な漁場

干潟は栄養が豊富でよい漁場になります。魚類・貝類・甲殻類など多種多様な生物の産卵場・育成場になっています。



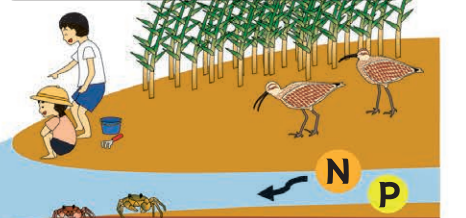
アサリは沿岸域の水質浄化に重要な役割を担っています。

動物プランクトン

植物プランクトン

渡り鳥の飛来地

干潟には鳥の餌になる様々な生物が多く棲んでいるので、渡り鳥の餌場・休息地になっています。



水質の浄化

干潟の砂の中に棲んでいる様々な生物が、干潟に流れ込む有機物を分解し、海水をきれいになります。

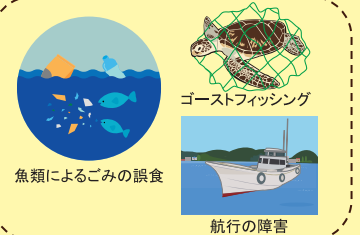


～海洋ごみの削減に向けて～

海洋ごみ問題が世界的に大きな問題となっています。特に、海中を漂うプラスチックは、海洋生物による誤食やゴーストフィッシング（投棄・遺失漁具に海洋生物が絡まって死亡する現象）などの生物被害、船舶航行への障害など、様々な形で環境や生態系に影響を与えることが懸念されており、海洋ごみ問題への対策が急務となっています。



海洋ごみ



魚類によるごみの誤食

ゴーストフィッシング

航行の障害

環境や生態系に与える影響の例



漂着物の例



集積された漁網やロープごみ



漂着した流木等



漁業者により集積・分別された漂流ごみ



海洋ごみゼロに向けて

海洋ごみには、海域で発生するごみばかりでなく、陸域で発生したごみが河川等を通じて海洋まで流れ着いたものも含まれます。海洋ごみを削減するためには陸域も含めた対策が必要です。

県では、関係市町と連携しながら漁業者やNPO等の様々な団体とともに、海岸漂着物等の回収活動に取り組んでいます。海洋及び沿岸域の環境を保全するため、海洋ごみゼロに向けて、これからも海洋ごみ対策を実施していきます。

